

# 3年生1学期の「受験生への切り替え」と自立の一步となる志望校設定

3年生1学期は生徒にとって受験生としてのスタートを切る上で重要な時期である。一方、多忙な教師にとっては、生徒の熱を冷まさずに、受験生へと効率的に切り替えさせられるかが課題になる。そこでポイントとなるのは、受験生の1年間のさまざまな取り組みの価値を教師が再確認すること、そして生徒が志望への思いと今の自分とのギャップを自分の言葉で語ることだ。

※このコーナーは、高校の先生方との会議を経て制作しています。掲載しているデータなどは、先生方が実際に活用されているものを基にしています。

取り組みのニュアンスを学年団で共有するために

図1 学年団の目線合わせのための指導フロー

ダウンロード

月	全体の動き(●=担任の動き)	共有のポイント
4月	スタディサポート(3年生1回) 志望校調査(志望校設定シート) スタディサポート結果分析検討会 面談 LHR	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学年の現状を把握し、今年度の教科指導・学年経営の基軸設定と修正</li> <li>● あるべき学習習慣と進路志望状況を個別に具体的に指導できるように</li> <li>● 生徒の志望の背景を知り、年間指導に有効活用(6月の模試までに、進路について考えておくべきこと、調べることを提示するとよい)</li> <li>● 志望校決定シート、スタディサポートデータを活用して具体的にアドバイスし、実践させる</li> <li>● 1年間の学年目標、進路行事などを共有</li> <li>● ゴールデンウィークで遊ばせないためにも、「この時期がいかに大切か」を、入試からの逆算で考えさせる→先輩データで意識付ける</li> </ul>
5月	ゴールデンウィーク 学習時間記録期間 学年集会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ゴールデンウィーク中とその後の1週間を学習時間記録期間とする。連休を経ても、安定して学習が続けられているかを確認</li> <li>● 4月の面談やスタディサポートの分析結果が生かされているか</li> <li>● 6月、7月の模試の重要性。ここで結果を出せると、生徒は自信が持てる。</li> <li>● 部活動引退後の生活リズム切り替えの重要性</li> </ul>
6月	LHR(志望校設定) 面談 進研模試	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 進研模試前に志望校設定をさせる。4月の志望校設定検討シートを踏まえた面談時に示した「しておくべきこと」がしっかり出来ているか、志望に変化があるかなどを確認</li> </ul>

1

指導ストーリーを軸に学年団の団結を強める

短期的な目標を明確にするために

図2 テーマ別スケジュール

ダウンロード

月	学習のテーマ	進路のテーマ	生活のテーマ	テスト・模試
高3の1学期	4月 授業に集中し、5教科にこだわろう	進路実現でのこだわりを明確にし、志望校を第3志望まで設定してみよう	部活動加入/授業中心の生活で、4月からは家庭学習をプラス1時間	上旬 校内模試 中旬 下旬
	5月 理科、社会に得意科目をつくろう	志望校について保護者と話そう	部活動非加入/苦手教科の克服を目指して、家庭学習をプラス1時間	上旬 定期テスト 中旬 下旬
	6月 教科書の応用問題で実戦力を高めよう	第1志望を絞り込もう	高校生活最後の文化祭に全力を尽くそう	上旬 校外模試 中旬 下旬

年間計画は、生徒に向けた言葉で作成することで、学年集会やLHRで教師だけではなく、生徒にも配布して活用できる

※先輩データを生かした年間計画もウェブサイトアップしています。

ダウンロード

このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。  
<http://benesse.jp/berd/> →HOME>情報誌ライブラリ(高校向け)>生徒指導・進路指導ツール集

## プラス $\alpha$ の指導

### 3学年教師集団としての 目標を掲げる

年度当初に行事などの共有と共に、どのような教師集団になるべきかを、目線合わせをしておきたい。「学力低下を子どものせいにはしない」「普通に見える生徒」こそを大切にしたい指導をする」「どのようなデータからも子どもの素の姿を感じられる感性を持つ」「基礎基本をきちんと徹底させる」などの目標を言語化する。年度当初に徹底し共有しておくことで、夏休み明け、推薦入試出願時期、センター試験前後といった山場にも学年団が一丸となり、ぶれない指導ができるようになるだろう。

### 教科担任も含めた 学年団の団結力を高める

指導フロー、テーマ別スケジュールなど指導の先を見通すための協議、共有には、教科担任の参加も重要である。カリキュラムとは別の視点で先を見通すことで、「今どのような雰囲気の授業が必要か」が見え、指導が変わることも少なくないだろう。このことによって、学年としての団結力も更に高まっていく。また、協議に当たって、前年度の3学年担当をアドバイザーとして招くことで、よりリアルな声を資料に盛り込むことができる。

### 新旧3年担任による 情報交換を行う

3年生の担任は、前年度の3年生担任と「進路指導上、重要な時期」「成績上昇の生徒、下降の生徒などのエピソード共有」「課題（もっとこの時期にこうしておけばよかった）」「多忙度（この時期までに〇〇しておくべき）」などについて、情報交換をしておきたい。また、2年時、担任を持っていて、3年で担当にならなかった教師からもしっかりと引き継ぎをしておくことが大切だ。指導のノウハウだけでなく、「思い」を継承することが重要だ。

### 活用後のフォロー

◎どのような行事が、どのような狙いで実施され、どの行事とリンクしているのかを理解することで、学年団には「生徒に積極的に仕掛ける時期」と「生徒個々の思考の成熟をじっくりと待つ時期」が明確に区別出来るようになる。受験の1年間の中で、教師から自立することも生徒に期待される成長の1つである。生徒が教師の誘導がなくても進路を考え、選ぶようになるには、教師の「手をかける時」と「手を離して待つ時」のメリハリが重要だ。生徒が受験を通して大きく成長するために、学年団は「手をかけるべきタイミングを見抜き、そこで素早くアクションが取れる集団」を目指したい。

### データ活用 のねらい

## 進路ストーリーを可視化する

**1年間の進路ストーリーを共有** ●3年生にとって、4月はリセット感を持ち、受験生としての1年間を好スタートさせる上で、非常に重要だ。だが教師は、さまざまな行事や校務が山積し、目の前のものを一つひとつこなしていくことで精一杯であるのが実情だ。慌ただしい時期だからこそ、学校として設定する面談や模試、学年集会の意味とつながりを見通しておかないと、生徒のリセット感を日々の学習習慣へと確実につなげていくことができない。進路ストーリーの共有で、まず学年団の結束を図ることが必要である。

**可視化して、各自の役割を明確にする** ●教師の意識、指導のベクトル合わせを年度当初にどれだけ行えるかで、指導の質は大きく変わる。学年目標、目指す生徒像、方針、行事などを「点」として確認するだけでなく、生徒の変化、成長という「線」としての指導ポイントを日程表に書き込むなど目に見える形で目線合わせする。それによって、担当教師の役割が明確化し、教師間の連携が強まる。

### データ活用 の流れ

## 教師同士の語り合いを中心に

**各行事の「狙い」「リンク」を意識する** ●まずは、大学入試までの計画を学年団で共有したい。指導フロー（図1）、テーマ別スケジュール（図2）などを使用すると理解しやすいだろう。特に、「各行事にどのような意義や狙いがあるのか」「各行事がどのようにリンクしているか」をベテラン教師が中心となって言語化していく。それによって「受験生の1年間を通してどのような生徒を育てるのか」が具体的にイメージ出来る。

**それぞれの経験を語り合う** ●指導ストーリーを協議する時間を設けて、「このような声掛けが有効」「過去にこのような事例があった」など、各教師の経験を共有する。そこでの意見を踏まえ、「この学年団ならではのストーリー」をつくる事が出来れば、更に学年団の一体感が醸成されるだろう。

### 4月は 学年方針の ベクトル合わせが カギ

年度当初の学年会議で、指導フロー、テーマ別スケジュールなどを学年方針のたたき台として提示（図1、2使用）

3学年団の各教師に、足りない点、深める点などを考えてもらう。（前3学年の教師にも協力してもらうとより良い（図1、2使用）

4月下旬の学年会議で、指導フロー、テーマ別スケジュールを基に協議（図1、2使用）

学年会議などで、定期的に確認し、常に先を見通した指導を意識する（図1、2使用）

# 2

## 将来像を意識した志望校設定で生徒を育てる

「生徒把握」と生徒の「気付き」のために

図3 生徒に自分を語らせる志望校設定シート

ダウンロード

現在の志望先

A	大学	法	学部	法	学科
B	大学	法	学部	法律	学科
C	大学	人文	学部	人文	学科

・志望校(進路・生き方)を考える上で、優先したこと、大切にしたこと

夢と夢で終わらせざるを得ない。実現できる環境が整った大学で、経済的にも進学が可能な大学

ここに書かれた内容をもとに、面談を行う。進路のこだわり、あるいは悩みや不安など、その生徒の今を語る上で欠かせないキーワードを面談で見つけたい

・自分はどうのように生きたいか。その上で、なぜこの志望校にしたのか

より安全で実質的な道を歩くことでもっともしたい。自分の夢に正通な、学びたいことも、一番ありたい大学で学びたいと思った

・どんな勉強がしたいか、どんな職業に就きたいか、どんな興味を追求したいか

法律の勉強がしたい。そして、その人々の命に社会のことも学びたい。法律の知識を生かせる仕事に就きたい

・なぜその大学を選んだのか、なぜその土地で暮らそうと思ったのか

法律の勉強がしたい。理想としている大学生活がここにある。思ってから、法律に慣れる仕事に就きたい。卒業生が通っていることも魅力を感じた

・なぜその学部・学科を選んだのか

法律の勉強がしたい。社会人として必要な知識と身につけられる。資格も取得できる。この学部・学科も志望した理由

生徒の「こうありたい」という思いと、志望学部・学科の設定にズレがないかを確認する。学部・学科への思いが固まっていれば、出願時にも生徒の判断はぶれない

・志望校の特徴ある教育内容、グローバルCOE、特色GP、現代GPなど

2年次に行われる実習は、地域の問題と息を合わせて考えたい授業であり、大学からでは学びが浅い。体験で生きた学びを期待している

・第1志望の入試科目配点

	国語	数学	英語	地歴	公民	理科	その他
センター試験	150	150	150	50			
個別学力試験	150	150	150	150		150	

※このシートに記入した内容を基に6月の面談を実施します

4月9日記入 保護者確認サイン(通研)

個に応じたデータ活用

図4 部活動中心で焦る生徒に授業の大切さを伝える卒業生データ

ダウンロード

卒業生の進学先	部活動	部引退前の学習時間	部活動参加中の主な学習内容	部引退後の学習時間
地元国立大理系学部	野球部	2.5時間	授業の予習復習、弱点科目(物理、化学)の強化(学校で使っている問題集を活用して)	5.5時間
地区ブロック大文系学部	卓球部	3時間	授業の予習復習、校外模試の解き直し	5時間
旧帝大理系学部	水泳部	3.5時間	授業の予習、センター試験対応参考書(古典)	6時間
公立大文系学部	陸上部	3時間	授業の予習復習、授業で使っている問題集の演習(解き直し重視)、長文問題集(学校で使っているもの)	5.5時間



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。  
<http://benesse.jp/berd/> →HOME>情報誌ライブラリ(高校向け)>生徒指導・進路指導ツール集

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも併せてご活用ください！ 右のウェブサイトをご覧ください。

●2007年4月号  
 「受験生にするための3年生1学期の意識付け」

●2008年6月号  
 「受験へ向けた3年生生保護者への意識付け」

Benesse® 教育研究開発センター

<http://benesse.jp/berd/>

生きたデータの徹底活用  クリック！

HOME→情報誌ライブラリ(高校向け)→  
 生徒指導・進路指導ツール集でご覧ください

加工可能な資料が  
 ダウンロードできます！

生徒指導・  
 進路指導ツール集

ウェブサイトから  
 ダウンロード！

## プラス $\alpha$ の指導

### 志望校設定シート作成と面談をセットにする

志望校へのこだわりや志望の根拠、更に将来も自分が大切にしていきたいことなど、進路の志望に関して多面的に教師が問い掛け、それに対して生徒自身の言葉で語らせることで、生徒の志望校に対する意識が高まってくる。空欄で書けなかった設問でも、面談で問い掛けると未整理ながら自分の思いを語り始める生徒も少なくない。事前の設定シート記入と面談という2つの作業を通して、生徒の今を確認していくというイメージを持つとよいだろう。

### 3年生1学期中に5教科型の学習を実践させる

高2までの3教科型の学習と高3からの5教科型の学習では、生徒の日々の学習の進め方も大きく変わってくる。そこで高3になった段階で、とにかく早く5教科型を体験させてみるのが重要になってくる。部活動がまだ続いている中であっても5教科型に挑戦させてみる。たとえすぐに挫折しても、この時期に5教科型を経験しておくことが、今後に生きてくる。学習記録などで、学習の仕方、バランスをチェックし、5教科型へ移行する見通しを立てさせたい。

### 受験生とは何かを考えさせる

「受験生になろう!」と言われても何をすればよいか分からない生徒も多い。生徒の志望や学校の状況によって、あるべき受験生像は異なってくる。だが、土台となるのは、「3点固定」「日々の予習・授業・復習」「模試の徹底活用」などこれまで教師が繰り返し言ってきたことをしっかり徹底出来るかどうかである。まずは当たり前のことを怠りなく日々実践していくことが重要であり、それが入試本番の成果と直結することを、卒業生のデータなどで見せる。

### 活用後のフォロー

◎志望校設定シートに見られる生徒の進路意識状況や学習習慣の状況などは、出来る限り学年団で共有する。そこで大切なのは、目標に向かって頑張る生徒を皆で褒めることだ。学年団のさまざまな教師が生徒に合った言葉で褒めることで、生徒の達成感や自己肯定感を高め、更なる学習意欲の向上が実現する。また、ほかの生徒には、「頑張れば、先生みんなが応援してくれる」ことが伝わり、受験を学年団全体で乗り切る雰囲気づくりにもつながる。可能であれば、1学期の4月中と夏休み前に進路検討会を実施し、生徒情報の共有化を図る。若手や赴任歴の短い教師には良い勉強の場となるだろう。

### データ活用のねらい

## 把握と気付きを実現する

**教師の把握と生徒の気付きにつなげる** ●この時期、担任には生徒の実態把握が急務だが、実は生徒自身にも自分の進路観を俯瞰することが求められる。そこで有効なのが進路希望調査だ。進路希望調査を実施する学校は多いが、単に志望校を書かせるのではなく、生徒の志望の成熟度を教師が把握し、そして生徒自身が気付くためのものとしてほしい。このほか、自宅学習記録など、生徒の状況把握のための調査がいろいろと実施されるが、いずれも「教師の把握と生徒の気付き」につながるものでありたい。

**個に応じたデータを活用し受験への意識を高める** ●3年生になり「心機一転、頑張ろうと考え、行動する生徒」「何をすれば良いか分からない生徒」など、それぞれの状態は多様だ。だからこそ、集団に向けた一斉発信の情報だけではなく、個々に応じた情報活用が求められる。過去の受験生の事例も、それを見る生徒が「自分とここが共通する」と置き換えて考えられるような見せ方が必要だ。

### データ活用の流れ

## 今の自分と入試をつなげる

**詳細に書かせることで生徒の今が見える** ●生徒の進路決定状況の度合いはさまざま。そこで、単に志望校を書かせるのではなく、**図3**のように「志望設定の際に自分が大切にしていること」など、内面まで掘り下げて詳細に書かせることがポイントとなる。抽象的な設問も織り交ぜながら、生徒の生き方を聞くことで、生徒の進路観の成熟度が見えてくる。空欄になったままで書けていないところも、生徒の今を知るメッセージの1つとして注視する。

**現状の改善点を具体的に確認する** ●志望校を設定することで、行くべき進学先とそこに到達するための自分をシミュレーションすることが初めて可能になる。生徒の意識が入試につながった瞬間を逃さず、目標達成のために今後取るべき行動を**図4**などの先輩の事例を利用して具体的に指導したい。

### 生徒把握を踏まえた先輩データ活用

志望校設定シートを書かせ、進路志望状況をチェック(**図3**使用)

自宅学習記録を実施し、生徒の学習姿勢、学習の仕方、内容などをチェック

進路志望状況、学習状況から、個々の生徒の実態を把握

生徒の実情に合わせて、先輩データを加工し、面談などで活用(**図4**使用)